

2015年(平成27年)11月20日発行 やくしん 第53巻 第12号  
(毎月1回20日発行) 通巻642号 昭和38年5月28日 第3種郵便物認可

楽しいご法の習学

# やくしん

2015 12月号

躍進

特集

地道に続ける



# 喜びの人生をつくる



株式会社タニサケ代表取締役会長  
**松岡 浩さん**

昭和60年の創業以来、毎年「20%」以上という高利益率を生み出している会社がある。ゴキブリ殺虫剤などの製造販売で知られるタニサケだ。収益を生み出し続ける秘訣について、松岡会長は「人に喜びを与える習慣を身につけることにある」と語る。地道にやり続けることの意味について伺った。

## 0・1%の努力

—創業以来、二十年以上にわたり高収益を生み出している秘訣は。

私たちの会社には、全国各地から多くの方に見学に来ていただいているま

す。皆さんに驚かれるのは、高い利益率や業務改善の工夫もさることながら、社員の明るいあいさつや笑顔です。そして、いきいきと仕事に取り組む姿勢にとても好感をもたれます。

「どうしたら、あの明るい雰囲気が生まれるのですか」とよく聞かれます。答えは簡単です。社員一人ひとりが確かに存在感をもっているからです。それは、「会社を愛する社員の誇りと自信」といつてもいいでしょう。

ただ利益を追求するだけでなく、縁あって一つの場所に集まつた人びとが助け合い、磨き合いながら、人として成長できる人生道場。それが私たちが

目指す会社です。社員数三十三名という小さな会社にあって、高収益を生み出す理由があるとすれば、愚直なまでに、地道にコツコツとやり続けている努力ではないかと思うのです。

「昨日よりも0・1%の工夫や努力をプラスする」という気持ちです。それを一年間続けると、1・001の365乗で1・44になります。その数字を一年前と比較すると、約44%も成長しましたことになります。

とびきりの笑顔であいさつすることだつていい。人よりも早く出勤することだつていい。大事なのは、一度やろうと決めたら、徹底的にやり続けることなんです。やり続けるには、根気がいります。それでも、なんとか歯を食いしばって、「習慣」になるまでやり続ける。そのちょっとした努力が大きな力を生み出すのです。

毎日少しづつ工夫や努力を続けてい

ると、ときに大きなアイデアが生まれることもあります。私たちの主力商品であるゴキブリ殺虫剤は誤食を防止するため、ふた付きのプラスチック容器にホウ酸だんごを入れています。ところが、このふたが外れてお客様の元に渡ったことがあります。年間約二千万個作るうちの二個ですが、お客様のことを考えればゼロにしなくてはなりません。一時は画像センサー導入の話もありました。しかし、急な設備投資は経営を圧迫します。そんなとき、社員から「細い二本の鉄棒をベルトコンベアに取りつける」というアイデアが出たのです。これにより、ふたの付いていない製品は、見事に選別されるようになりました。このちょっととした工夫によって、約五百万円分の節約ができたわけです。日頃から「0・1%の改善」を意識することで、大きな成果も生まれるのであります。

——会長ご自身、何かやり続けてきたことはありますか。

創業当時、私は社内でただ一人の営業マンとして、全国を飛び回り、商品を売り歩いていました。このとき、強い武器になつたのが「ハガキ」です。

例えば、初めて名刺をいただいたお客様には、必ずすぐあとにハガキを出します。すでに知っている人でも、また会えば、別れたあとに出します。ふと思いついて、まだ会つたことのない人に書くこともあります。

フットワークならぬ、ハンドワークの軽さが私のモットーで、いまでも毎月三百枚ぐらいは書いています。一枚のハガキが古いお客様との旧交を温め、また、新たなお客様との縁も生み出してくれるのです。

例えば、新年のあいさつ回りのあと、さらにはいさつのハガキを書く。それも社長や会長といった経営者だけでな

く、現場で案内をしてくれた社員さん  
にまで書きます。ここが大事なところ  
で、これで相手は私のことをずっと忘  
れません。これが会社の信用につなが

るほど嬉しかった。人生は七転び八起き、これからもがんばるのでよろしく頼む」といった内容が書かれていたのです。

ですから、私は社長時代、営業マンに課したノルマは、売り上げではなく、一日三枚のハガキでした。何枚もハガキを出し続けていると、最初はなんとも思わなかつたお客様も「こいつは違う」という目で見てくれるようになるのです。「<sup>ひき</sup>差は大差」と言われますが、一日一枚書くか書かないかの差はわざかに見えて、五年、十年積もれば実に大きな差になります。よい習慣が人生を変えるのです。

## 凡事徹底

——会長は、トイレ掃除や「ミ拾いも長年続けられていますね。その理由とは。私は、イエローハット創業者の鍵山秀三郎さんからトイレ掃除を学び、それを続け、習慣にしてきました。



### プロフィル ● まつおか ひろし

1944年、岐阜県生まれ。岐阜県立大垣商業高校を卒業後、イビデンを経て、家業のスーパーマツオカを経営。85年に、発明家の谷酒茂雄さんと害虫駆除剤のメーカー「タニサケ」を創業。社会活動を積極的に行ない、経営者の体験研修セミナー「タニサケ塾」を主宰する。「岐阜掃除に学ぶ会」代表世話人。コガワ計画(Mランド)取締役相談役。

です。「花の咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばす。やがて大きな花が咲く」という名言があります。凡事とは、人生という大きな木になるための根っこづくりといえるのではないでしようか。しかも、目に見えないところにただひたすら根を張るのです。

みんなが嫌がる場所を一所懸命磨いているところ、便器と同時に心もピカピカに輝くような気がしています。トイレ掃除自体は、何も特別なことはあります

せん。まったく平凡な雑事です。でもそれを二十年以上にわたり、毎日薄紙を一枚一枚積み重ねるように続けてきたなかで、私の人生、そして、当社は着実にその根を張ってきたという実感があります。

掃除には、「やらされる掃除」と「やらされた掃除」があります。やらされる掃除は、決められた範囲をやつただけで終わります。やらされた掃除は、それ以上の掃除をします。

毎日の仕事も同じです。やらされる仕事とやる仕事。はたして、どちらが幸せなのでしょう。「習慣に早くから配慮した者は、おそらく人生の実りも大きく、習慣を侮った者の人生はむなしものに終わる」という言葉があります。人生を良くするのも悪くするのも、すべて自分の心次第なのです。日々コツコツとよい習慣を積み重ねて、より豊かな人生を歩んでいきたいものです。